

5月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2012. 5. No. 50

クメール正月帰省 ～家での苦勞を思い出す～



急いで朝食を食べて出発！

皆さんこんにちは。今カンボジアは1年で最も暑い季節です。4月にあるカンボジアでのお正月には、人々は皆故郷に帰り、暑さをしのいでゆっくりしています。園の子どもたちもそれぞれの育った家に一時帰省しました。お正月が過ぎて、園に戻ってきた子どもたちは、40度近くなる炎天下でも、友達と楽しそうに笑い、走り回っています。

さて、今回のDream通信では、子どもたちの帰省の様子、またプロサッカーコーチを招いてのサッカー練習の様子、そして帰省後の子どもたちと畑の様子についてお伝えします。

クメール正月帰省

2012年4月9日から4月18日、「夢追う子どもたちの家」の77名の子どもたちが全員、育ての親の元へ一時帰省をしました。カンボジアの今年の正月は4月13日～15日の3日間でしたが、その前後15日間は学校が休みになります。そこで、今回は子どもたちに家での暮らしを思い出し、里親様への感謝、育ての親の想いを感じてもらおうと、1週間の長期休暇をとりました。

9日の早朝、センターホールで全員で朝食をとった後、一斉にバスに乗り込みました。何日も前から楽しみにしていた子どもたちは笑顔が溢れ、出発時間の15分前から準備万端整っていました。それぞれ近い子どもの家から順番に子どもを降ろし、育ての親に園での様子を報告します。特に大きい子どもについては進学について、就職について、育ての親からも話して相談してもらおうと頼みました。また、成績が悪かったり、悪さばかりする子には、育ての親からどうして園に住むことになったのか、なぜ家で生活できないのかを話してもらおうとも頼みました。

そして1週間が過ぎ、子どもたちをまたバスで迎えに行くと、育ての親や、家に残る兄弟と涙ながらにお別れを言う子どもたちの姿がとても印象的でした。今回長い休暇をとったことで、家での生活の本当の厳しさを感じ、同時に里親様への感謝も強く感じたと思います。さらに子どもたち自身が将来頑張って家族を支え、里親様に恩返ししなければならないという思いが芽生えたと思います。そしてそれらが今後も勉強に励む力になって欲しいと思います。



目がよく見えない祖母と再会



育ての親との寂しい別れ



ヘディングの練習



女子も本気で試合！



とうもろこしの背丈が半分に



枯れ果てたきゅうりの苗

フロサッカーコーチと練習

4月8日、カンボジアやシンガポールなど海外で活躍するプロサッカーコーチの先生方が来園しました。先生方は子どもたちにサッカーを教えてくださいと、子どもたちもやる気満々で中学校の広いグラウンドへ向かいました。

カンボジアでは、体育の授業はあっても、ただサッカーのゲームをやって遊んでいるようなもので、基礎の練習などのやり方はあまり教えていません。さらに、園の子どもたちはいつもバレーボールで遊ぶことがほとんどで、サッカーはあまりしませんでした。今回基本練習から教えてもらい、サッカーの楽しさを学び、さらに上達することができました。暑い日中の練習でしたが、ほとんどの子どもが裸足で大汗をかきながら、頭や肩を使ってパスするなど、難しい練習も笑顔でこなしました。練習の最後はスタッフとの試合です。小さい子から大きい子までグループに分かれ、必死にゴールをめがけて走りました。大きい子どものグループは、コーチ陣スタッフチームに圧勝し、大喜びでした。

試合終了後は園に戻って、『夢を叶えるということ』について、講義を開いてもらいました。『本当にプロになりたいなら人の倍、見ていないところで練習を重ねなければならない』、『可能性が無いと言われても絶対に諦めなければ必ず夢は叶う』、と話してくださいました。子どもたちは先生方の話を聞き、自分もそんな夢を見つけないかと目を輝かせていました。また、卒園が近い子どもたちには力強い励ましの言葉になりました。

被害にあった子どもたちの畑

3月から始めた孤児院の裏にある子どもたちの農作業は、何度か空芯菜の収穫を行い、順調に進んでいました。しかし、4月に入ってから畑の野菜は大変な事態に見舞われました。

なんと、園外からたくさんの牛が柵を越えて進入し、子どもたちの植えていたとうもろこしや空芯菜をほとんど食べてしまったのです。子どもたちの授業中など、畑を見ていない時間に、柵を壊して他の家の牛が入り込んでいるのだと思われます。全てのグループには進入防止のネットを張っていましたが、張り方が弱かったのか、支柱ごと倒れて中の野菜を食べられていました。

これを機に現在の畑を更地にし、また一から土を起こし、畑を大きく広げようと思います。土を起こし、整地し、堆肥をまき、種を植えるところからの再スタートです。野菜を食われてしまったグループの子どもたちは、皆がっかりした様子で、野菜を見つめています。

今回の状況を踏まえて、今後はネットを補強し、畑全体に張らなければなりません。また多くの野菜が育ち、子どもたちの元気な声が響き渡るように、職員もサポートしていきたいと思っています。